

ハートパル

2021年
12月
235号



男だってつらいよ

その生きづらさは、どこから来るの？



毎年 11 月 19 日は男性の健康やジェンダー(社会的性差)を考える「国際男性デー」です。男性の生きづらさにも目を向け、耳を傾けようと 1999 年に始まりました。近年、女性の生き方や働き方については話題や議論になる一方で、男性についてはワークライフバランスや働き方改革、育児休業制度の推進を通して男性のライフスタイルや生き方を見直す働きかけがありますが、なかなか進まない現状があります。男女共同参画社会の実現には男性の生きづらさにも目を向けることが重要です。男性が「つらい」と声をあげやすい社会こそが、誰もが生きやすい社会につながると考えられます。

男性だって生きづらい！

「男らしさ」をめぐる民間機関が男性の意識を調べたところ、年齢を問わず約半数が「最近では男性の方が女性よりも生きづらい」と回答しています。また、別の調査では、『「男だから」というジェンダーバイアスやプレッシャーにより生きづらさを感じることはあるか」という問いに、「頻繁に感じる」は 17%、「たまに感じる」は 34%と回答しています。毎年行われる世界幸福度ランキングでは、150 か国のうち日本は 56 位と先進国では下位の方です。調査項目の「自由度」と「寛容さ」が特に低いことから、人生を自由に選択できにくいという「生きづらさ」が影響しているのかもしれません。

「男らしさ」に縛られていませんか？

民間の調査で 18 歳～70 歳の男性に「男らしさ」のイメージを尋ねたところ、以下のような結果でした。どの年代においても、「男はこうあるべき」といったようなジェンダーによる刷り込みが見えてきます。社会の縛りが自分を縛っていることに気づくことが、生きづらさから抜け出す一歩です。

	18～30 歳	31～50 歳	51～70 歳
①	筋肉質、体格がいい	頼りになる	決断力がある
②	頼りになる	力強い	頼りになる
③	堂々としている	堂々としている	包容力がある
④	力強い	決断力がある	堂々としている

「大黒柱」を降りてみませんか？

男らしさと直結しているものに、「大黒柱」の呪縛があります。「良い会社に入らねば」、「稼がねば」、「養わねば」、「出世の競争に勝たねば」など、男が経済的な部分を背負うといったジェンダーバイアス(性別役割の固定観念)が男性を生きづらくしています。男性と仕事のつながりが強すぎることで家族や家庭生活、ひいては自分らしく生きることを後回しにしていますか？経済力だけが男性の価値や存在意義を示すものではないということに目を向け、「大黒柱」から降りる勇気が必要かもしれません。

無意識化された特権意識を解消しよう！

これまでの男性は、職場では女性に補助的な役割を担わせ、平等な機会と評価を保証しない体制によって管理職や高給などの好待遇を受け、家庭では妻の無償労働に支えられて安定した家庭生活を営んできました。その「特権」は社会の中に組み込まれ、男性の中では当然のこととして無意識化されていました。しかし現代は、雇用体系の変化から収入が安定せず、夫婦共働きが一般的になったことで、「男としての特権」は失われつつあります。

男性が無意識化した特権意識を解消し、自らの生き方に目を向け、「つらくない」人生を選択することのできる社会づくりが必要です。





11月28日(日)午後1時半からコミセン大会議室にて、文筆業の清田隆之さんをお迎えし、「女は『モヤモヤ』男は『ハテナ?』～すれ違いから考えるジェンダー問題～」と題して講演会を開催しました。

清田さんはこれまで1200人以上の恋バナを聞き集め、「恋愛とジェンダー」をテーマにコラムやラジオで発信しています。また文筆家として、聞き取った恋愛話や相談を整理し、ジェンダー問題を的確に取らえた著書も出しています。今回の講演で清田さんは、「恋バナに出てくる男性たちのエピソードを聞くにつれ、だんだん共通点が見えてきた。その中には社会で多数派としてあぐらをかいてきた、男性特有の考え方のメカニズムがある」と分析されました。その一つが「感情を言語化できない、しない男たち」です。それが女性との関わり方に大きな影響を及ぼし、女性との心地よい関係が構築できないことにつながると話されました。清田さんは、「男性が無自覚に染みついているジェンダー感を見つめ直すことが、男らしさにしぼられた男の生きづらさの緩和につながるのではないか、男性の変化が必要だ」と締めくくられました。



「さよなら、俺たち」



「よかれと思ってやったのに～男たちの「失敗学」入門」

講座報告

「女性のための護身術講座」を開催しました

11月21日(日)、講師にジェットクラヴマガ・インストラクターの田中健一さんを迎え、体をつかまれた時やナイフで襲われた時などの対処法について、実践を交えながら学びました。この講座は昨年好評をいただき、2年連続の開催になりました。参加者からは、「実践的なことが楽しく学べて良かった」、「今後の防犯に役立つと思った」などの感想をいただきました。



お手本を見せてくれた田中先生と助手の内田さんの迫力にびっくり!



参加者も真剣な表情で、エイヤー!

つながりサポート 3つの拠点

孤独や不安を抱える女性達がお互いの体験や思いを語り合い、支え合う場所です。必要に応じて相談機関や支援団体へつなぎます。

お気軽にお立ち寄りください。



ピアサポート プリママ
090-2195-7222
月～土 9時～17時



プリママ おしゃべりピアカフェ開催
毎週水・土 13時～16時



大村市母子寡婦福祉連合会
0957-46-3286

月・金
9時～15時

のほほん亭(個人宅)
0957-52-7409

第1・3土曜
10時～15時

☆当センターの講座・イベントに参加し右図の駐車場をご利用の場合は、無料駐車券を発行します。

【問合せ先】

大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」

〒856-0832

大村市本町458番地2 プラットおおむら4階(旧浜屋ビル)

TEL: 0957-54-8715 FAX: 0957-54-8700

Eメール: danjyo-s@city.omura.nagasaki.jp

[問合せ時間] 月～金 8時30分～17時15分(祝・年末年始休)

